

第7章 環境用語集

() のページ数は、本冊子の掲載ページを示します。
それ以外は掲載されている資料名を示します。

あ行

■アオコ（青粉）（千葉県環境白書）

湖沼面が緑色あるいは青色に変わる富栄養化現象の一つで、原因は藻類の異常増殖です。春先から夏にかけて発生することが多く、腐敗すると悪臭を放ったり、水産業に多大な影響を与えます。

■遺伝子（P45,52）

遺伝子とは、生き物の「設計図」のようなものです。同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性が生まれます。

■温室効果ガス（P56,57）

二酸化炭素やメタンなど、地表から放出される赤外線を吸収する気体のことです。これらの大気中の濃度が高まると地表の温度が上がるため、地球温暖化の原因とされています。

か行

■外来種（P6,38,39,40,42,44,45,46,47,53）

一般的に、人為的に持ち込まれた種をいいます。海外から日本国内に持ち込まれた「国外移入種」と、日本国内にいる生き物が、生息していない地域に持ち込まれた「国内移入種」があります。どちらも、在来の生物種や生態系に様々な影響を及ぼすことがあります。

■環境省レッドデータブック（P38,40,42,44,46,47）

環境省により、おもに人間の開発行為によって絶滅が危ぶまれる生き物を、以下のカテゴリーなどで区分し、公表されたものです。

- ・絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- ・絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種
- ・準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

■貴重種（P38,40,42,44,46,47）

一般的には、数が少なく簡単に見ることができないよう

な（まれにしか見ることができない）種をいいます。「なりたの自然環境」では、環境省レッドデータブックや千葉県レッドデータブックに記載されている種類を総称して貴重種と表現しています。

■群落（P5,14,15,16,17,18,19,20,23,24,25,26,27,28,30,31,32,33,34,35,38,51）

同一の環境に生育する植物のまとまりのことです。

さ行

■在来種（P45,46,53）

ある地域に、従来生息・生育している固有の動植物種をいいます。外来種に対する用語として用いられます。

■里沼（千葉県環境白書）

里山と同様に、人の暮らしと強いつながりのある湖沼、池沼を「里沼」と呼びます。池沼、溜池ためいけは、里山の要素の一つですが、印旛沼と手賀沼は生物多様性の面からも、人の生活からみても特筆すべき存在であることから、特に「里沼」として取り上げています。

■里山（P6,8,10,12,42,51）

市街地の近郊に位置し、農林業などに伴う様々な人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されている二次林、その周辺の水田や畑地ためいけなどで構成される地域のことを指します。特有の生き物の生息・生育環境として、また、食料や木材など自然資源の供給、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域として位置付けられます。

■自然環境保全地域等（成田市の環境）

優れた自然環境及び身近にある貴重な自然環境を将来に継承していくため、「千葉県自然環境保全条例」に基づき指定される地域です。自然環境保全地域、郷土環境保全地域、緑地環境保全地域の3種類があり、指定地域内では、自然環境の保全に影響を及ぼすおそれのある開発行為などが規制されます。

■社寺林しゃじりん（P16,23,51）

神社や寺にある林のことで、「鎮守の杜ちんじゅ」とも呼ばれます。神聖な場所として大切に守られ、人手の加わっていない自然の植生が残っている場合が多く見られます。

■消費者 (P3)

ほかの生き物を食べたり、寄生したりして栄養分を得る生き物です。

■植生 (P2,4,5)

ある地域に生育している植物の集団を、まとめて表現するときに用いる用語です。高山植生、海岸植生などのように用いられます。また、植生の広がり地図化したものを「植生図」といいます。

■しんたんりん新炭林 (P2,4)

たきぎ新や炭の原料となる木材を採取するための林のことです。クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、エノキなどで構成された里山の雑木林を指します。

■水田雑草群落 (P5,14,15,16,17,18,19,20,23,24,25,26,27,28,30,32,33,34)

水田雑草から構成される植物群落です。これらの植物群落の構成種は、水田を耕したり、水を入れたり、刈り取りによる環境の変化に対応しており、これらの変化がなくなると生育できない種も多く見られます。

■スプリングエフェメラル (P6)

春先に花をつけ、夏まで葉をつけると、あとは地下で過ごす植物のことです。「春の儂いもの」という意味で、「春の妖精」とも呼ばれます。カタクリやフクジュソウなどが代表的です。最近では植物だけではなく、春先のみ成虫が見られる、ツマキチョウやミヤマセセリなどの昆虫類も「スプリングエフェメラル」と呼ばれるようになりました。

■生活型 (鳥) (P44)

鳥の見られる季節を分類したものを「生活型」と呼び、次のようなものがあります。

留鳥：1年をとおして同じ地域にすむ鳥。

夏鳥：春にやってきて子どもを生み、秋に去っていく鳥。

旅鳥：渡りの途中に立ち寄った鳥。

冬鳥：秋にやってきて、冬をすごし、春に去っていく鳥。

■生産者 (P3)

おもに、光合成によって有機物をつくりだす植物を指します。

■生態系 (P3,52,53)

あるまとまった地域に生活する生き物全体と、その地域を構成する環境が一体となったシステムを指します。池、河川、山、海などが、それぞれひとつの生態系として扱われます。生態系の中では生き物同士、また生き物と環境が互いに影響しつつ継続的な安定した関係を保っています。多様な生態系の存在は、食料や水、きれいな空気など私たちに必要な自然環境の源となります。

■生態系被害防止外来種 (P38,40,42,44,46,47)

環境省と農水省が選定した外来種で、幅広く生態系などに被害を及ぼすおそれのある外来種です。これらの種は、「生態系被害防止外来種リスト」として公表されています。

■雑木林 (P2,4,6,8,9,10,12,38,40,42)

20年程度の周期で伐採し、下草刈り、落ち葉かきなどで維持される林です。成田市では、クヌギ、コナラ、シデの仲間などで構成され、多くの植物が生育します。

昔から、たきぎ新や木炭のほか、シイタケのほだ木、農作物の肥料となる落ち葉を得る場として利用され、現在ではレクリエーションの場としても活用されています。

た行

■淡水 (P45,47,49,54)

塩分を含まない真水のこと。

■千葉県レッドデータブック (P38,40,42,44,46,47)

千葉県内における絶滅のおそれのある野生動植物をカテゴリー別に区分し、その現状についてまとめられたものです。千葉県レッドデータブックのカテゴリーは、環境省レッドデータブックのカテゴリーと次のように対応しています。

| 千葉県 | 環境省 |
|-------------|-----------------|
| 最重要保護生物 (A) | 絶滅危惧 I A 類 (CR) |
| 重要保護生物 (B) | 絶滅危惧 I B 類 (EN) |
| 要保護生物 (C) | 絶滅危惧 II 類 (VU) |
| 一般保護生物 (D) | 準絶滅危惧 (NT) |

■電気伝導度 (EC) (P50)

電気の流れやすさを示すもので、電気伝導率ともいいます。純水は電気を通さず、水に電気を流す物質 (イオン)

が溶け込むことで電気が流れます。イオンが多いということは不純物が多い、すなわち水が汚れているということになります。

は行

■ビオトープ (千葉県環境白書)

生き物を意味する Bio (ビオ) と場所を意味する Tope (トープ) を合成した言葉で、「野生生物が生息できる空間」を意味します。

人工的に造った池などといった特別なものだけでなく、私たちの身近にある森林や草地、河川や河川敷、池や湖沼など、その地域にいる野生の生き物がすむ、ある程度まとまった場所も該当します。

■富栄養化 (千葉県環境白書)

閉鎖性水域において、河川などから窒素、リンなどの栄養塩類が運び込まれて豊富に存在するようになり、植物プランクトンが多くなることを指します。特に、人間の影響で栄養塩類が過剰に流入して富栄養化が急激に進むと、植物プランクトンが急激に増殖します。その結果、それを餌とする魚類などの生き物の増殖が追いつかず、アオコ、赤潮などを引き起こすことが問題になっています。

■分解者 (P3)

生き物の死骸や糞などから栄養分を得る生き物です。

■閉鎖性水域 (千葉県環境白書)

地形などにより水の出入りが悪い内湾、湖沼などの水域をいいます。成田市では、印旛沼などが該当します。

■ホバリング (P42,43)

はばたきによって体を支え、空中の 1 点にとまるような飛び方を「ホバリング」といいます。

や行

■谷津・谷津田 (P2,4,6,7,8,9,10,16,17,18,19,20,22,23,25,27,28,29,30,31,32,33,34,50,51,52)

房総半島の北部には、台地に樹枝状の谷が入り込む独特の地形が見られます。この谷は「谷津」と呼ばれ、一般的には台地に入り込んだ小さな河川によってつくられます。この「谷津」の低地部は、古来、「谷津田」と呼ばれる水

田として利用されています。

■ヤブツバキクラス (P2,5)

植物社会学上の分類で、ヤブツバキ、アラカシ、シラカシ、ヒサカキなど、暖温帯の雨量に恵まれた地域に生育する常緑広葉樹の樹林 (照葉樹林帯) のことをいいます。

■湧水 (P1,2,18,46,48,49,50,51)

地下水が地表に自然に出てきたもののことです。古くから飲料、洗濯、農業などに広く利用され、地域住民の生活や生業にも深く結びついた存在です。

■用材林 (P2,4)

燃料以外の建築・家具などに使用するために、スギ、ヒノキ、マツなどが植林された林を指します。

ら行

■林縁 (P6,10,15,17,18,19,20,23,25,27,38,39,40,43)

森林の、草地や裸地に接する部分です。微気候条件の変化があり、林内と異なる多様な動植物がみられます。

■路傍雑草群落 (P18)

河川敷や土手、山野、野原など、人や動物が歩く道のそばに構成される植物群落です。人の踏みつけに強いオオバコや、種が人や動物について運ばれやすいコセンダングサやオナモミなど、人の生活と関わりの深い植物が構成種として多く見られます。